

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

【5.0.1入学者受け入れ方針】

1. 2006年度入学生より、大学入試センター試験を利用する入試に1月出願と3月出願を導入した。
2. 一般入試（大学入試センター試験を利用する入試を含む）とその他の入試の募集人員の割合を6対4にすることについては2007年度の場合は、入学定員650名に対して一般入試の募集人員を385名とし、その割合を59%とした。また、2008年度は入学定員680名（2007年4月、収容定員増を文部科学省に申請済）に対して一般入試の募集人員を382名とし、その割合を56%としている。

【5.0.2学生募集方法、入学者選抜方法】

1. 2007年度入学生よりスポーツ推薦入試制度を導入した。今後、本入試で入学した学生の学習状況等の追跡調査を行い、入試制度見直しに資することが必要である。
2. 全学の動向に合わせて、2008年度入学生より、経済学部も一般入試に2科目英数型入試、センター併用型（英語）入試を新たに加えることとなった。これも、多様な能力をもった学生を受け入れるという入試施策の一環である。

【5.0.5アドミッションズ・オフィス入試】

2006年度入学生よりAO入試制度を導入した。文化・芸術・スポーツ活動、各種団体等におけるリーダーシップ、技術や能力に関する資格、社会貢献活動における実績を評価対象としている。なお、従来の社会人入試、帰国生徒入試もAO入試に含めた。今後、本入試で入学した学生の学習状況等の追跡調査を行い、入試制度見直しに資することが必要である。

【5.0.7入学者選抜における高・大の連携】

高校生に経済学への理解を深めてもらうため、高等学校への出張授業あるいは受験説明会等で、学部情報誌『エコノフォーラム21』の配付を継続的に行っている。

【5.0.10外国人留学生の受け入れ】

経済学部は1995年10月のフランス・リール第一大学経済社会学部との学部間協定の締結によって、これまで学部生、大学院生、教員の交流を行ってきたが、2006年1月に大学間協定に拡大された。これにより、交流がさらに盛んになることが期待される。

学内第三者評価

入学者受け入れ全般については、2006年度入学生より大学入試センター試験の利用、一般入試での2科目英数型の採用、一般入試の募集人員の割合6割、AO入試制度導入など、受験生に多様な機会を与えていることは、2003年目標を具体化するものとして、評価できる。

こうした入学者選抜方法の多様化に伴い、スポーツ推薦入学生やAO入試入学生の学習状況等の追跡について、対応の具体化が期待される。高・大連携や外国人留学生の受け入れは、好ましい試みとはいえ、導入期間も短くその成果については、今後の検証が望まれる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。
・入試制度改革に対する追跡調査等での検証に期待する。